

東大螢雪会 **医 学 部 数 学** 攻略演習

マンツーマン指導で医歯薬学部にも多くの合格者を輩出している「東大螢雪会」では、主要な私立大学医学部の予想問題を作成しています。このコーナーでは、「東大螢雪会」の作成した予想問題を用いて、主要な私立大学医学部の数学を攻略するための演習を行います。毎号1校分の演習を行い、全12校の連載となる予定です。

今月号では、岩手医科大学医学部の数学を攻略します！

第7回 岩手医科大学医学部 編

東大螢雪会講師 小池 淳

岩手医科大学医学部の数学は、制限時間60分で大問3題の出題がここ数年続いています。比較的取り組みやすい問題が多いのが特徴であり、仮に類型的ではない問題が出題されたとしても、穏当な考察で解決します。そのため、毎年高得点が必要となります。今回の予想問題も、ワンミスくらいでクリアしたいところです。

1

座標平面上で円 $C_1: x^2 + y^2 = 1$ と放物線 $C_2: y = x^2 + 5$ がある。

- (1) C_1 と C_2 に同時に接する直線の方程式をすべて求めよ。
- (2) (1)の接線のうち、傾きが最小のものと C_1 及び C_2 との接点をそれぞれ求めよ。
- (3) (1)の接線のうち、傾きが最大のもの、傾きが最小のもの、 C_2 で囲まれる領域の面積を求めよ。

2

A, B, C は2行2列の行列で、 $AB^2C = AB = \begin{pmatrix} 4 & -11 \\ -5 & 14 \end{pmatrix}$, $ABC = \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -1 & 3 \end{pmatrix}$ のとき、行列 BC, B, C をそれぞれ求めよ。

3

$\triangle ABC$ において、 $BC = a$, $CA = 3$, $AB = 4$ とする。 $\triangle ABC$ の重心を G とし、 $\triangle ABC$ の内心を I とするとき、次の問いに答えよ。

- (1) \overrightarrow{AG} を \overrightarrow{AB} と \overrightarrow{AC} を用いて表せ。
- (2) \overrightarrow{AI} を \overrightarrow{AB} , \overrightarrow{AC} , a を用いて表せ。
- (3) $GI \parallel BC$ となるように a を定めよ。

(4) $GI \perp BC$ となるように a を定めよ。

1

方針

(1)は放物線 C_2 の接点の x 座標を t とおいて接線の式を表し、それが C_1 と接する条件 (⇔接線と中心の距離=半径) を t の方程式とするのがよいでしょう。点と直線の距離の公式の出番です。

ココがポイント

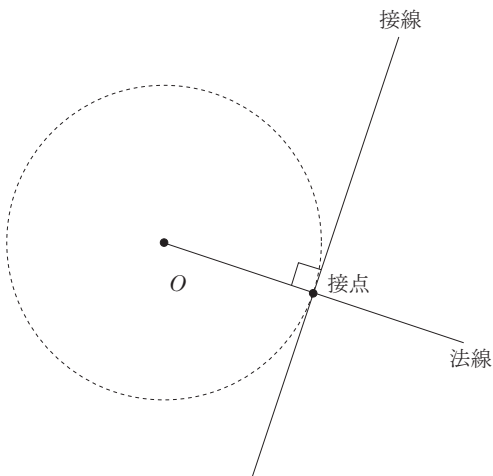
$y = f(x)$ 上の点 $(t, f(t))$ における接線の方程式は

$$y = f'(t)(x-t) + f(t)$$

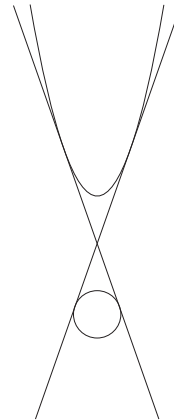
(2)は円と接線の接点を求める単純な計算ですが、本問の解答のように円の接点をおいていない場合に手こずる人が多いようです。本問では、円の方程式は使わずに、接線の式① → 法線の式② と考えます。つまり「円の中心を通過して接線に垂直な直線」として法線の式②をつくり、連立方程式 {①, ②} を解くのがセオリーです。

ココがポイント

円と接線の接点 → 接線と法線の交点



(3)は有名なパターンの問題であり、結果も有名ですが、上手に計算しましょう。放物線とその接線ではさまれる部分の面積は完全平方式の積分になります。くれぐれも展開した形のまま計算しないように気をつけて下さい。なお C_1 と C_2 の共通接線は下図のとおりに4本存在します。



解

(1) C_2 上の接点 (t, t^2+5) とおくと

接線の式は $y = 2t(x-t) + t^2 + 5$

$$\therefore y = 2tx - t^2 + 5 \Leftrightarrow 2tx - y - t^2 + 5 = 0$$

これが C_2 と接するとき中心 $(0, 0)$ との距離が半径1に等しいので

$$\frac{|t^2 - 5|}{\sqrt{4t^2 + 1}} = 1$$

(両辺 ≥ 0 なので2乗して分母を払っても同値)

(118)

$$\Leftrightarrow (t^2-5)^2 = 4t^2 + 1$$

$$\therefore t^4 - 14t^2 + 24 = 0$$

$$(t^2-2)(t^2-12) = 0$$

$$t^2 = 2, 12$$

$$t = \pm\sqrt{2}, \pm 2\sqrt{3}$$

$$\therefore y = \pm 2\sqrt{2}x + 3, y = \pm 4\sqrt{3}x - 7$$

(2) (1)の接線のうち、傾きが最小
($= -4\sqrt{3}$, $t = -2\sqrt{3}$)なものは

$$l_1: y = -4\sqrt{3}x - 7$$

$$l_1 \text{ と } C_2 \text{ の接点は } l_1 \text{ と法線 } n: y = \frac{1}{4\sqrt{3}}x$$

(中心 O を通って l_1 に垂直な直線) との交点。

$$\begin{cases} y = -4\sqrt{3}x - 7 \\ y = \frac{1}{4\sqrt{3}}x \end{cases} \text{ より}$$

$$\left(\frac{1}{4\sqrt{3}} + 4\sqrt{3}\right)x = -7$$

$$\frac{49}{12}\sqrt{3}x = -7$$

$$\therefore x = -\frac{12}{7\sqrt{3}}$$

$$= -\frac{4}{7}\sqrt{3}$$

$$\therefore y = \frac{1}{7}$$

$$\therefore C_2 \text{ との接点 } \left(-\frac{4}{7}\sqrt{3}, \frac{1}{7}\right)$$

$$C_1 \text{ との接点は (1) より } (-2\sqrt{3}, 17)$$

(3) (1)の接線のうち傾きが最大
($= 4\sqrt{3}$, $t = 2\sqrt{3}$)なものは

$$l_2: y = 4\sqrt{3}x - 7$$

l_1, l_2, C_2 で囲まれる領域の面積 S は y 軸対称
なので

$$S = 2 \int_0^{2\sqrt{3}} \{x^2 + 5 - (4\sqrt{3}x - 7)\} dx$$

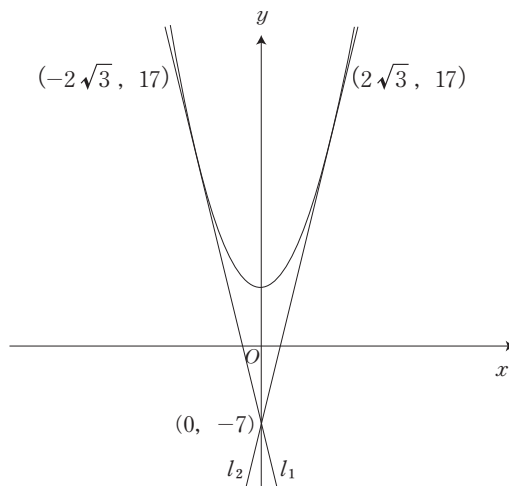
$$= 2 \int_0^{2\sqrt{3}} (x^2 - 4\sqrt{3}x + 12) dx$$

$$= 2 \int_0^{2\sqrt{3}} (x - 2\sqrt{3})^2 dx$$

$$= 2 \left[\frac{1}{3}(x - 2\sqrt{3})^3 \right]_0^{2\sqrt{3}}$$

$$= \frac{2}{3} \cdot 8 \cdot 3\sqrt{3}$$

$$= 16\sqrt{3}$$



2

ココがポイント

2次正方行列 P, Q について

$$E = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \text{ として}$$

$$PQ = E \Leftrightarrow QP = E$$

($\Leftrightarrow P, Q$ は互いに逆行列)

ココがポイント

A^{-1} が存在するとき

$$AX = B \Leftrightarrow X = A^{-1}B$$

$$XA = B \Leftrightarrow X = BA^{-1}$$

$$A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \text{ について}$$

$\Delta = ad - bc \neq 0$ のとき A^{-1} が存在して

$$A^{-1} = \frac{1}{ad - bc} \begin{pmatrix} d & -b \\ -c & a \end{pmatrix}$$

解

$$\begin{cases} AB^2 C = AB = \begin{pmatrix} 4 & -11 \\ -5 & 14 \end{pmatrix} \\ ACB = \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -1 & 3 \end{pmatrix} \end{cases}$$

$$\Leftrightarrow \begin{cases} AB \cdot BC = AB \cdots \textcircled{1} \\ AB = \begin{pmatrix} 4 & -11 \\ -5 & 14 \end{pmatrix} \cdots \textcircled{2} \\ ACB = \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -1 & 3 \end{pmatrix} \cdots \textcircled{3} \end{cases}$$

$$\textcircled{1}; \begin{pmatrix} 4 & -11 \\ -5 & 14 \end{pmatrix} BC = \begin{pmatrix} 4 & -11 \\ -5 & 14 \end{pmatrix} \quad (\because \textcircled{2})$$

両辺に左から $\begin{pmatrix} 4 & -11 \\ -5 & 14 \end{pmatrix}^{-1}$ をかけて

$$BC = \begin{pmatrix} 4 & -11 \\ -5 & 14 \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} 4 & -11 \\ -5 & 14 \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$$

$$CB = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} \cdots \textcircled{4}$$

$$\textcircled{3}; A \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -1 & 3 \end{pmatrix} \quad \therefore A = \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -1 & 3 \end{pmatrix}$$

$$\textcircled{2} \text{より} \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -1 & 3 \end{pmatrix} B = \begin{pmatrix} 4 & -11 \\ -5 & 14 \end{pmatrix}$$

左から $\begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -1 & 3 \end{pmatrix}^{-1}$ をかけて

$$B = \begin{pmatrix} 1 & -2 \\ -1 & 3 \end{pmatrix}^{-1} \begin{pmatrix} 4 & -11 \\ -5 & 14 \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} 3 & 2 \\ 1 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 4 & -11 \\ -5 & 14 \end{pmatrix}$$

$$= \begin{pmatrix} 2 & -5 \\ -1 & 3 \end{pmatrix}$$

④より

$$C = B^{-1} = \begin{pmatrix} 3 & 5 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$$

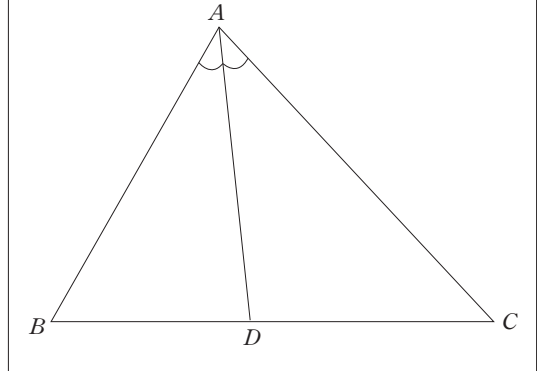
3

方針

重心については問題ないでしょう。内心については三角形の内角の2等分線の性質をフル活用します。

ココがポイント

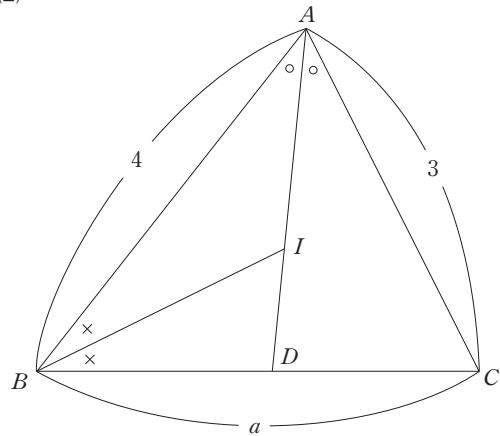
$\angle A$ の2等分線を AD とすると
 $BD : CD = AB : AC$
 $[= \triangle ABD : \triangle ACD]$



解

$$(1) \vec{AG} = \frac{1}{3}(\vec{AB} + \vec{AC})$$

(2)



$\triangle ABC$ において $\angle A$ の2等分線と BC との交点を D とすると $BD : CD = AB : AC = 4 : 3$

$$\therefore \vec{AD} = \frac{3\vec{AB} + 4\vec{AC}}{7} \cdots \textcircled{1}$$

$\triangle ABD$ において $\angle B$ の2等分線と AD との交点が I なので

$$AI : DI = BA : BD$$

$$= 4 : \frac{4}{7} a = 7 : a$$

$$\therefore \vec{AI} = \frac{7}{a+7} \vec{AD}$$

(120)

$$= \frac{7}{a+7} \cdot \frac{3\vec{AB}+4\vec{AC}}{7} \quad (\because \textcircled{1})$$

$$= \frac{3\vec{AB}+4\vec{AC}}{a+7}$$

(注) 一般に $AB=c$, $BC=a$, $CA=b$ とすると

$$\vec{AI} = \frac{b\vec{AB}+c\vec{AC}}{a+b+c}$$

$$\Leftrightarrow \vec{OI} = \frac{a\vec{OA}+b\vec{OB}+c\vec{OC}}{a+b+c} \quad (O \text{ は任意の点})$$

となります。

(3)

$$\vec{GI} = \vec{AI} - \vec{AG}$$

$$= \frac{3\vec{AB}+4\vec{AC}}{a+7} - \frac{\vec{AB}+\vec{AC}}{3}$$

$$= \frac{-a+2}{3(a+7)}\vec{AB} + \frac{-a+5}{3(a+7)}\vec{AC} \dots \textcircled{2}$$

$$\vec{BC} = \vec{AC} - \vec{AB} \dots \textcircled{3}$$

$GI \parallel BC$ のとき

$\vec{GI} = k\vec{BC}$ (k は実数) とおけて, $\textcircled{2}$ と $\textcircled{3}$ より

$$\frac{-a+2}{3(a+7)}\vec{AB} + \frac{-a+5}{3(a+7)}\vec{AC} = -k\vec{AB} + k\vec{AC}$$

\vec{AB} , \vec{AC} は 1 次独立なので

$$\begin{cases} \frac{-a+2}{3(a+7)} = -k \dots \textcircled{4} \\ \frac{-a+5}{3(a+7)} = k \dots \textcircled{5} \end{cases}$$

$$\textcircled{4} + \textcircled{5} \text{ より } -2a+7=0 \quad \therefore a = \frac{7}{2}$$

(4)

$GI \perp BC$ のとき

$$\vec{GI} \cdot \vec{BC} = 0$$

$$\{(-a+2)\vec{AB} + (-a+5)\vec{AC}\} \cdot (\vec{AC} - \vec{AB}) = 0$$

$$\therefore (a-2)|\vec{AB}|^2 - 3\vec{AB} \cdot \vec{AC} + (-a+5)|\vec{AC}|^2 = 0 \dots \textcircled{6}$$

$$\begin{cases} |\vec{AB}| = 4, \quad |\vec{AC}| = 3 \\ \vec{AB} \cdot \vec{AC} = |\vec{AB}||\vec{AC}|\cos A \\ \quad = 12 \cdot \frac{4^2+3^2-a^2}{2 \cdot 4 \cdot 3} \quad (\because \text{余弦定理}) \\ \quad = \frac{1}{2}(-a^2+25) \end{cases}$$

より $\textcircled{6}$ は

$$16(a-2) - \frac{3}{2}(-a^2+25) + 9(-a+5) = 0$$

$$\therefore 3a^2 + 14a - 49 = 0$$

$$(3a-7)(a+7) = 0$$

$a > 0$ より

$$a = \frac{7}{3}$$

来月号では、金沢医科大学の数学を攻略しますので、ご期待ください！

全12校の掲載予定は以下のとおりとなっております。

- 第1回 / 4月号 東京医科大学
- 第2回 / 5月号 昭和大学医学部
- 第3回 / 6月号 杏林大学医学部
- 第4回 / 7月号 愛知医科大学
- 第5回 / 8月号 北里大学医学部
- 第6回 / 9月号 聖マリアンナ医科大学
- 第7回 / 10月号 岩手医科大学医学部
- 第8回 / 11月号 金沢医科大学
- 第9回 / 12月号 東京女子医科大学
- 第10回 / 1月号 東京慈恵会医科大学
- 第11回 / 2月号 東邦大学医学部
- 第12回 / 3月号 日本大学医学部

「東大螢雪会」では、「マンツーマン指導」をバックアップする教材として、特に医学部の大学受験に焦点を当てた、予想問題演習を実施しております。これらの予想問題は、「東大螢雪会」が各大学の出題傾向を分析して、独自に作成したものです。

「東大螢雪会」では、本誌をご覧の方々の学力アップのために、主要な私立大学医学部の予想問題を無料でプレゼントしています。ご希望の方は、「東大螢雪会」のホームページ (<http://www.keisetsukai.com>) (PC・携帯) からお問い合わせください。

